パートナーシップシティ

市民とのパートナーシップによるまちづくりを進める「鹿児島市」。福祉や教育などさまざまな分野にわたる地域課題の解決に向け、行政と協働して取り組む市民活動団体やNPO法人などを紹介します。

Vol.15 ボランティアグループ さわやか会

会員は一芸を持つ人ばかり

平成11年8月、老人保健施設の利用者などに喜んでもらおうと、カラオケ店や居酒屋などで顔なじみのメンバーが中心となって、ボランティアグループを結成しました。

唄や踊り、楽器の演奏など、さまざまな演目を披露する私たちの活動が次第に広まり、町内会の祭りや六月灯にも呼ばれています。

当初は、月1件程だった出演依頼が、今では年間300件を超える程です。

テレビや新聞、インターネットなどを通じて、私たちの活動を知った人が自然と集まり、現在の会員数は209人になりました。

会のメンバーの職業もさまざまで、年齢構成も3歳～86歳と幅広い世代の人が参加しています。

これだけの人数になるとメンバーの特技も多種多様。ものまねや手品、バルーンアートなど、プロ顔負けの一芸を持つメンバーもいます。

おかげで、芸達者な仲間が集まる芸能一座といった感じで、依頼があればどこにでも出掛けるようにしています。

また、年に一度、メンバーが一堂に集まってそれぞれの特技を披露する発表会を開催しています。今年も11月17日に市民文化ホールで開催予定で、メンバー同士の融和と絆を深める良い機会になっています。

常に喜んでもらえるような活動を続けたい

さわやか会のモットーは、私たちが披露する演目を見てもらった皆さんに心から喜び楽しんでもらい、元気になっていただくことです。相手が喜ばないボランティア活動はボランティアではないと考えています。

メンバーは、「訪問先の皆さんが何を求めているのか。何をしたら心から喜んでくれるのか」ということを常に基本に考えながら活動しています。

毎回、演目を披露した後に締めくくりとして、観客と一緒に「おはら節」を踊ることにしています。老人ホームで寂しい思いをしていた入居者が喜んで一緒に踊りだすこともあるんですよ。

必要とする人のためにこれからも役に立ちたい

初めての活動で私が唄を披露したとき、車イスに座った女性が優しく笑いながら「また来てね」と、私の手を握り締めて涙を流してくれました。

今でもその姿を忘れることができず、以来、出演依頼のあったところをこれまで一度も断ったことはありません。

一年に数十回も訪問する施設もあり、訪問する施設の数も毎年増えていますが、すべての依頼をこなせるよう、会員と一丸となって頑張っていきたいと思います。

新たな取り組みとして、私たちのような活動を行うグループを必要とする老人福祉施設などの関係者との出演協議の場を昨年から開催しています。

おかげで施設関係者との協議が整い出演が決まった事例も増えています。

笑顔と元気を届ける活動を通して、たくさんの人が健やかに幸せな生活を過ごしていただけるようなお手伝いを続けていきたいと考えています。

自然と手拍子が始まり、笑顔の輪が広がります

この日は皆与志町の泰山荘（たいざん）デイサービスセンターを訪問。
通所者の皆さんの手拍子でおはら節を踊る

日本舞踊

手品

鳥越さんは梅沢富美男に扮（ふん）して唄を披露

剣舞

最後には、「また来るね」と言って一人ひとりと握手

取◆材◆メ◆モ

さわやか会の魅力は、会のメンバーと観客の皆さんに笑顔があること。

笑顔の力は偉大で、人に元気と幸せをもたらすように感じました。

インタビューに協力していただいた鳥越さんのとても爽やかな笑顔も印象的でした。

話をしてくれた人

ボランティアグループ
さわやか会
会長　**鳥越　昭一**さん

問い合わせ☎252-1057